

ヤンゴン廃棄物発電設備プロジェクトチーム

【JFE エンジニアリング(株)、JFE 環境サービス(株)、JFE Techno Manila, Inc.
JFE Engineering India Pvt. Ltd.】

代表者：^{おおやま}大山 ^{つとむ}努（JFE エンジニアリング(株) 環境本部 エンジニアリングセンター
グローバル推進部 課長）

メンバー：104 名（JFE エンジニアリング(株)62 名、JFE 環境サービス(株)8 名、
JFE Techno Manila, Inc.9 名、JFE Engineering India Pvt. Ltd.25 名）

ヤンゴン市は、約 550 万人の人口を抱えるミャンマー連邦共和国最大の都市である。2011 年 3 月の民政移管を契機に経済活動が活発化し、廃棄物量は日本の高度経済成長期と同様、増加の一途を辿っている。廃棄物の大半は野積みされており、環境衛生の悪化や処分場の逼迫が深刻化している。さらに、同国は慢性的な電力不足に苦慮していることから、廃棄物発電が電源の一つとして期待されている。

同国の経済的背景から、環境省 JCM 設備補助事業を活用した提案を当社から同市政府に実施、この提案が同国中央政府に受け入れられ、当社フルターンキーによるプラント建設が実現した。同国初の廃棄物発電プラントとして 2017 年 6 月から運転を開始し、年間約 2.5 万トンの廃棄物を適正処理すると同時に、年間 5,200MWh の電力および 4,700 トンの CO2 削減クレジットの確保が可能となった。さらには、次期大規模処理施設の要員育成や市民への教育などに同施設が積極的に活用されており、同国における廃棄物管理行政の発展に大きく貢献している。

メディアでも多数報道され、廃棄物発電は信頼性が高く、クリーンで低コストを実現できる廃棄物処理技術として認知され始めており、ヤンゴン市においては大規模処理施設導入の機運が高まっている。ヤンゴン市以外の地域においても、同市に追従する形での計画案が浮上ってきており、各行政の首長や幹部による同施設の視察が相次いで実施されている。

また、東南アジア周辺国においても、一般的にはインフラ整備の最終段階で導入される廃棄物発電施設が生活インフラと同時期に導入された事により注目を集め、各国の廃棄物発電設備の導入に向けた具体的な計画が立案され始めている。

上記の優れた功績と今後の展開により、本件は国際貢献分野での表彰に値する。

